

# 手賀沼が海だったころ

## 歴史的遺産としての城郭

会長 森 伸之

### 1. はじめに ～自分の城めぐり体験から

従来城郭は、一部有名な観光スポットとなっていたものの以外は地域の歴史を物語る、知る人ぞ知る存在だったと思います。そして、城郭は立派な天守閣などの建物や石垣や水堀といったもので出来ているという捉え方をする方も多いと思います。

平成5年(1993)に姫路城(兵庫県姫路市)が世界文化遺産に指定されたのに象徴されるように、城郭を歴史的遺産として見直す動きがあります。

とはいえ、昔から城郭は地域のシンボルのようなもので、特に有名な城郭は名所旧跡として観光の対象となり、そういう城でなくても地域の人にとっては心の拠

り所になっていました。

実は姫路城が世界文化遺産に指定される前後、何度か姫路と周辺を訪ねたことがあります。平成5年(1993)以前しばらく兵庫県芦屋市に住んでいた自分は、地元の鷹尾城跡のある城山は麓から眺めるだけなのに、兵庫県の他地区にある有名な城跡には時々出かけていました。姫路城や龍野にある龍野城、丹波篠山の篠山城などです。当時は自分も山城よりも、天守閣や高い石垣のある立派な城の方に惹かれていたのかもしれませんが、当時、土塁と空堀の城を見に行ったのは、京都の船岡山城だけでした。

兵庫から東京に転勤になり、その後さらに愛知県に転勤となった時にも姫路城などを訪ねています。

特に平成18年(2006)の愛知県在住当時には、名古

屋から新幹線で姫路まで行って、姫路城を訪ねましたが、龍野と旧夢前町を泊りがけで回りました。



<姫路城西の丸櫓付近>

姫路駅から姫路城天守閣のある姫路公園に行く途中、中ノ門という場所にも土塁と一部石垣があり、その脇の道路は堀の跡とのことです。街の様々な場所に遺構があります。天守にのぼり、周辺を歩きましたが、単に美しい城というだけでなく、堅固な守りを実感できます。



<姫路城の天守閣 ～平成の修理以前>

その後龍野には姫路から姫新線で行き、本竜野駅で下車して龍野城まで歩きました。途中揖保川に架かる龍野橋を通りましたが、橋のたもとにガレリアアーツというしゃれた喫茶店があり、少し休憩しました。



<龍野橋からみた鶏籠山>

なお、龍野には鶏籠山城ともいう龍野古城と龍野城があり、自分が行ったのは龍野城の方です。龍野城はそれほど大きくなく、城下町もコンパクトですが、再建された本丸御殿はきれいに整備されています。城のある場所の近くから揖保川越しにヒガシマル醤油の工場が見えました。

翌日、置塩城に関する講演会があるとのことで、姫路に戻り一泊して旧夢前町に向かいました。村田修三先生の講演を聞き、バスで帰る車中で、乗り合わせた同じ講演会の受講者で赤松氏一族の子孫という男性のMさんと山城や赤松氏に関する話などをしました。

「なぜあのような不便な山の頂上付近に城を築いたのだろう」と自分が言うと、そのMさんは「それは現代人のあなたの考えだ。当時の人はそう思わず、防衛上などの必要性があって山城を築いたと思う」と言ってい

ました。



<置塩城跡遠景>

結局、山城にのぼる準備をせずに現地に来てしまった自分は、置塩城にはのぼることなく、Mさんの登城体験談を聞き、バス車中から城山を眺めただけでした。

## 2. 城郭を見る眼差しは様々

さて城郭を歴史的遺産として見直す動きについて話を戻しますと、城郭に対する価値観が多様であっても、歴史的遺産としての価値はゆるがないということだと思います。

城郭を見る眼差しは人様々で、城郭研究者、歴史家は、「築城時期は？ 城の縄張り、構造は？ どのような立地地？ 築城者は？ 築城目的は？ 合戦の時にどう使われたか？」といったことに関心があると思います。

建築家から見れば、「この天守閣や櫓などの構築物は、どのように建設されたのか？ 天守閣の構造は？ 梁や屋根材の材質は？ 石垣の高さ、石積みの仕方は？ 耐震性は？」といったことが関心事でしょう。

旅行者の視点では、「最寄り駅は？ その駅からの行程は？ バス便での最寄り

のバス停は？ 近隣ホテル、食事処は？ 紅葉のシーズンの見どころは？」ということに関心があるでしょうし、その旅行者を相手にする観光業者は、さらに年間に来る観光客の数を試算したり、近くの観光スポットも調べたりするでしょう。

地元の人たちからすれば、城郭は子供の頃よく遊んだ場所とか、花見をよくする場所であったり、あるいは災害時の一時避難場所として指定された場所かもしれません。また思い出ある懐かしい場所という人もいますでしょう。さらに問題意識の高い人にとっては、城郭を「地域教育の題材にしたい、街づくりに活用したい」といった見方をするかもしれません。

そうした様々な見方のあるなかで、例えば姫路城は世界文化遺産としてふさわしい、歴史的な価値のある美しく立派な城郭であるというのは、恐らく共通認識であると思います。

日本の城郭の数は、全部で2万とも3万ともいわれてきましたが、最近の研究では4万以上とされています。「日本に城は幾つあるのか？」高橋貞夫・高田徹論文『愛城研報告』第15号(2011)によれば、日本全国の城郭の数は42,024と推定されるとのこと。都道府県別では福島県が2,176で最多ですが、都道府県別の城郭推定数を都道府県の面積で割った城郭分布密度については、滋賀県が0.34251城/K平米でトップになります。

また、国指定文化財のうち城郭に該当する件数は239件とされ、都道府県別では兵庫県が22件で最多ですが、千葉県も本佐倉城跡と里見氏城跡(稲村城跡、岡本城跡)2件あります。もちろん国指定以外にも都道府県や市町村指定の文化財になっている城跡は数多くあります。例えば松ヶ崎城跡は、柏市指定文化財になります。

文化財となっている城もそうでない城も、統治目的か軍事目的か、何らかの理由で築城され、その地域に何百年も存在し続けたのであり、どの城も歴史的な価値はあるといえるでしょう。

### 3. 城郭による街づくりの取り組み

近年、全国各地において、城郭、城下の街並みを利用した街づくりの取り組みが実施されつつあります。

各地方自治体において、「まちの魅力を高める歴史的・文化的資源の一つである『城』」。明治初期に取り壊された城も多数ありますが、後年になり、シビックプライドにつながる資源として、天守の復元などを進めた都市も少なくありません。かつての城下町を中心に、現在の中心市街地が形成されている都市も多く、にぎわい創出の核として、城を会場とした地域イベントや各種行事が数多く開催されています。また、城を後世に継承すべく、保存・修理などの事業を計画的に進める自治体も多数あります」(2021年1月地域の文化資源「城」を活用

したまちづくり 市長座談会より)というように、城郭の歴史的価値を街づくりに活かそうという議論が進められています。

また、そうした城郭による具体的な街づくりの活動は、兵庫県姫路市、愛知県犬山市、滋賀県彦根市、長野県松本市など国宝の城跡を抱える地方自治体を含め、各地で既に始まっています。

姫路城という世界文化遺産を抱える姫路市では、姫路城の景観を損なわないような工夫を行い、様々な街づくりに取り組んでいます。

JR姫路駅北口から姫路城のある姫路公園までは約800mありますが、そのメインストリートである大手前通りは、戦災復興事業として計画され、1955年に完成しました。



＜姫路城天守閣から＞

その大手前通りについて、無電柱化など景観の確保のための整備が行われました。1983年度～1987年度には、市の整備事業として大手前通りの道路幅を50mとしましたが、さらに大手前通りに面した土地に建設する建築物の上限を約35mとする規制をもうけました。高いビルが建ってしまったら、せっかくの姫路城が遮られてしまうので、それを未然に防いだ訳です。さらに、姫路

では2015年4月から大手前通りの「トランジットモール化」が導入されました。これは公共交通機関だけが優先的に通行できるようにすることで、城に続く道路の渋滞の緩和をはかりました。それと同時に、車道の削減(幅50mの車道を2車線に縮小)と歩道の拡幅工事(合計約18mから約34mへ)も実施されました。姫路城まで、広い歩道を快適に歩くことができるようにしています。

また、国宝犬山城を抱える愛知県犬山市では、城下町再生の街づくりが実施されました。かつて、繁栄していた現在の城下町一帯は、1988年に犬山駅東口前に大型ショッピングセンターの開業が決まり、城下町の小売店のほとんどがその中の専門店街に移動してしまったことで衰退しました。

その後、犬山城から南に伸びる本町通りとこれに直交する新町通りを幅16mに拡幅し、新しい城下町風の商業施設を中心としたまちづくりを推進する官民協働組織が出来たりしましたが、歴史的建造物が失われることに危惧した人たちを中心に、歴史的建造物など古い町並みを残しながら城下町再生を目指す動きが活発化し、その流れでの街づくりが展開されています。



＜犬山の城下町の町並み＞



そして、2003年には、中心市街地活性化法に基づいたTMO(Town Management Organization)として、犬山市と地元企業が「犬山まちづくり(株)」を設立しました。「まちづくり」を行う会社として、都市再整備事業、空き家・空き店舗の活用、「ビールまつり」などイベントの開催等を行っています。



<木曾川沿いに聳える犬山城>

犬山では犬山城や針綱神社といった犬山城エリア、織田有楽斎の茶室如庵、さらに旧商家を含む城下町エリア、犬山焼窯元など、歴史的風致のエリア策定が行われました。それによって、国宝犬山城と町衆文化の担い手であった商家などの城下町を含む地域の活性化がはかられました。さらに、ハートの絵馬で人気に火が付いた姫亀神社と恋小町だんごの茶処くらやなど、最近のインスタ映えスポットが色を添え、若者も犬山を訪れるようになってきました。

#### 4. 千葉県下の城郭活用の取り組み

では、我が千葉県では城郭を利活用した街づくりはどのような状況でしょうか。

日本百名城の一つである、

佐倉市の佐倉城については、城下にある武家屋敷など歴史的景観を含めて、街づくりの市民協働事業が志向されています。



<佐倉城跡の馬出空濠>

その佐倉城は、千葉県では唯一日本百名城に指定されておりますが、城跡には佐倉城址公園があり、国立歴史民俗博物館があることでも有名です。佐倉城は、一般には土井利勝が築城したといわれますが、佐倉城には鹿島城という前身の城があります。鹿島城は、戦国時代末期に千葉親胤が大叔父の鹿島幹胤(もとたね)に命じて築城しようとしたが、親胤が暗殺され工事は中止、千葉邦胤の代に再度工事を続けたが、邦胤も家臣に殺されて未完となったともいわれます。戦国期の「鹿島城」を近世に大規模改修、増築したのが佐倉城でしょうか。



<中世城郭の面影を残す佐倉城跡の水堀>

佐倉城跡には、明治以降は陸軍歩兵第二連隊本部、後に歩兵第五七連隊が設置されました。当時を物語るものとして、兵舎の基礎に転用された礎石、十二階段(兵士の訓練用施設)などがあります。ですので、佐倉城跡は戦争遺跡でもあります。

佐倉城は近世城郭とはいえ、戦国時代の名残があり、特に堀のあたりなど、中世城郭の面影のある城でもあります。



<佐倉城址公園センター>

佐倉城跡の佐倉城址公園の東側には、佐倉城址公園管理センターがあり、佐倉城に関する模型や古写真、出土遺物などを展示していますが、NPO法人によるガイドボランティアなどもあります。ガイドボランティアは、佐倉城跡と佐倉城下以外に、本佐倉城跡についても実施されているようです。

最近、多古町でも城跡活用の街づくりが行われています。多古町といえば、多古米で有名ですが、戦国初期、享徳の乱での千葉宗家終焉の地で、城郭密集地域でもあります。当地には、多古城、志摩城、並木城、久保城、玉造城、次浦城…といった中世城郭が存在しています。

その多古町の物見台城と

いう城跡で、最近「お城開き」という行事が行われました。地元や県内外の山城ファンが昨年結成した「多古城郭保存活用会」が主催し、約五十人が参加し、草刈りや枝はらいなどの作業を行ったとのこと。そのほか、地元の子供たちへの城跡の説明、見学会なども行われています。

わが松ヶ崎城跡では、現在コロナ禍によって中断していますが、例年松ヶ崎城祭りを行ってきました。同様なことは、全国各地で行われているかもしれませんが、松ヶ崎城跡では2009年から松ヶ崎城祭りを行っております。その当時の会報には以下のように記載されています。

「城まつりののぼり旗を台中段にたて、手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会主催の松ヶ崎城まつりは、2009年11月15日(日)午前10時15分から午後4時まで行われました。

幸い天候に恵まれ、雨が降った前日とはうってかわり晴れて暑いくらい。

午前10時15分からのオープニングでは、松浦洋子さんの太鼓と笛、川喜多瑤子さんの太極拳で場がまりました。

午前、午後2回の見学会には、のべ100人くらいの方が参加されました。明治、大正の演歌や三味線を弾きながらの不思議囃は、茗荷さん、『松ヶ崎城節』を今回のために新しく作って頂きました。

それからネイチャーゲームでは、子供さんに楽しんでもらいました。会による地元

野菜・千葉大から仕入れた花の販売や、松葉町のフェアトレードショップ・アースさんによるアジアの小物・雑貨等の販売も行われました」



<第1回松ヶ崎城祭りの様子>

柏市の他の城郭のうち、最近市が土地を購入した幸谷城跡(通称「きつね山」)でも、自然保護団体が活動しており、種々のイベントなどおこなっています。

松ヶ崎城跡は、毎年2月中旬から3月中旬位に植樹した河津桜が咲き、大勢の市民が訪れます。



<松ヶ崎城跡の河津桜>

単純に桜がきれいなので城跡に来たという人も多いだろうと思いますが、城跡に来た人が城の歴史に思いをはせ、文化財や自然保護の重要性を頭の片隅で考えて頂ければ幸いです。また城跡に咲く花やそこで行われたイベントなどの記憶も、郷土愛につながっていけばと思います。



<松ヶ崎城祭りでの見学会>



<松ヶ崎城祭りでの獅子舞>

## カシニワ・フェスタ 2022に当会参加

コロナ禍で昨年は中止になっていたカシニワ・フェスタですが、今年は開催することになるので、ささやかながら参加することにしました。

イベントとしては、見学会のみ5月15日に行います。

松ヶ崎城跡見学会

日時： 5月15日(日)

14:00~14:40

内容：松ヶ崎城跡の遺構や城跡にある植物を説明します。

雨天の場合は中止です

よろしくお願ひします



## 布川(府川)城址及びその近郊



若山 善幸



写真1：利根川対岸布佐側から布川城址を望む

白い建物・役場(二の丸跡)、樹木の生い茂った場所・徳満寺(本丸跡)、右端・栄橋

### 1. 概要

手賀の浦に突き出た半島の先端に布川があり、その根元に布佐がある図のある書物で見て、我々の会の基本である「松ヶ崎城」「手賀沼」と何らかのかかわりがあるのではないかと思います。布佐川岸、木下川岸の対岸の利根町布川の布川(府川)城址に興味を持ち調べました。

布川城址は茨城県利根町布川の利根川近くに位置し、現在は徳満寺と利根町役場が建っておりますが、遺構がまだ残っております。(本丸・二の丸跡)

### 2. 歴史

歴史的には摂津の人、豊島頼保が寛元二年(1244年)府川に来て開いたと言われています。

その後豊島氏(豊島頼貞)が永正十六年(1519年)に近隣の村々を併合し、丘の上に城郭を築きました。

当時豊島氏は小田原の北条氏に属し、府川は佐竹街道・鎌倉街道の要衝の地であるとともに戦国時代には関所を設け水陸の交通を監視する軍事上の極めて重要な拠点であり、物資の流通中継地でもあったと思われます。

その後、豊島頼重は天正十八年(1590年)小田原城攻めで豊臣方の浅野長政に降り、忍城攻めに参戦し重症を負い没しました。嫡子明

重は徳川家康に召しだされ、1千7百石の旗本として富岡(神奈川県横浜市)に陣屋を構え布川城を去りました。

なお豊島頼継により永禄三年(1560年)に頼継寺(現在・来見寺)が開基され、その後豊島氏の菩提寺となりました。(豊島氏の墓があります)

豊島氏に代わり松平信一が5千石で知行しましたが、関ヶ原の戦いの後に3万5千石で土浦城主に抜擢されたため布川城は廃城となりました。

その後当初門前(現在の寺石段下の集会場のあたり)に建てられていた徳満寺(真言宗豊山派)が、城跡に寺を移して現在に至っています。(城郭図鑑を参照)



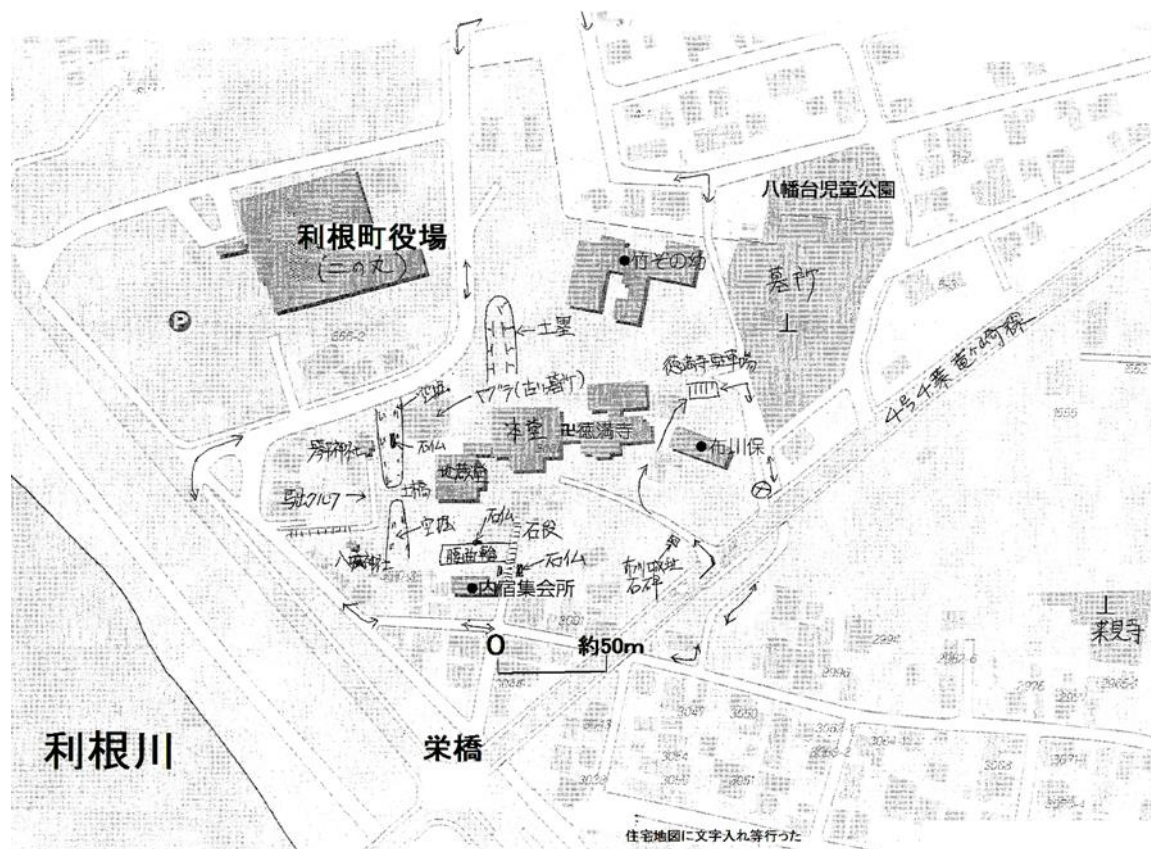


図1：徳満寺境内に残る布川城址の遺構

※徳満寺地蔵堂の西側に空堀があり、その中央には土橋があって、さらに西側の馬出郭と接続している。また本堂北側には比較的大きな土塁があって、北東の幼稚園の方に続いている。徳満寺がある場所が城の本丸で、北西側の現在利根町役場になっている場所は、二の丸とのことであるが、そちらには特に遺構が残っていない模様。

### 3. 布川城の構成

二の丸は旧・気象測器製作所、現・利根町役場及び本丸は徳満寺で、布川小学校辺りまでが外郭のかなり広大な城であったと思われます。

注

- A) 布川城址は利根川を西に臨む台地上にあって、本丸跡の徳満寺境内は馬出や土塁上といった高い所で標高約 20m、低地からの比高約 14m、本丸跡内部、二の丸跡内部も標高約 17m、低地からの比高約 11mとなっている
- B) 本丸跡西側の馬出から、東側の県道千葉竜ヶ崎線に接する徳満寺入口まで約 170mで、徳満寺裏の土塁の屈曲部から南の台地端までが約 60mなので、本丸は東西約 170m、南北約 60mの横に長い形と思われる。また、本丸跡の土塁は徳満寺の本堂裏から北側に約 80mほど続き、本丸跡の

北側は殆ど削平されており、その土塁しか遺構が見られないが、郭があった可能性がある。

C)本丸跡東側の現在保育園となっている場所とその北東側との境界部分は通路で、保育園裏は地形が盛り上がっている箇所があるが、通路は空堀跡、保育園裏の境界部分の土盛りは土塁痕か。

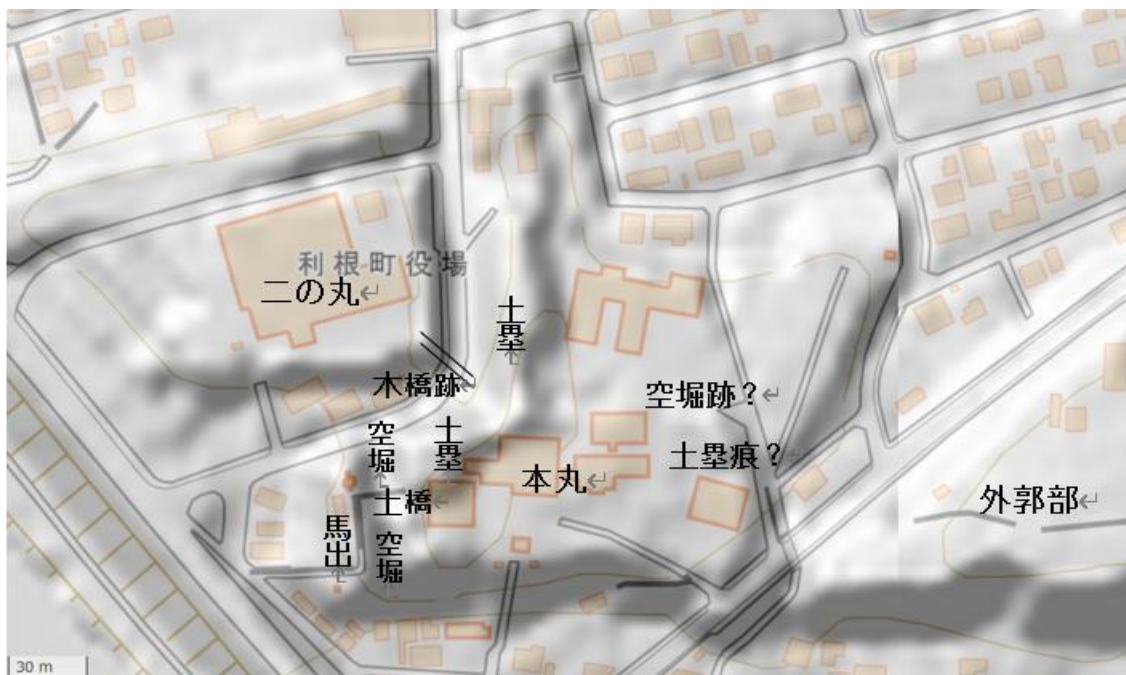


図2：布川城址と周辺の地形図（国土地理院地形図に文字入れを行った）

#### 4. 布川城址の写真

以下のように布川城址の写真を撮影しましたが、その撮影位置を図で示します。

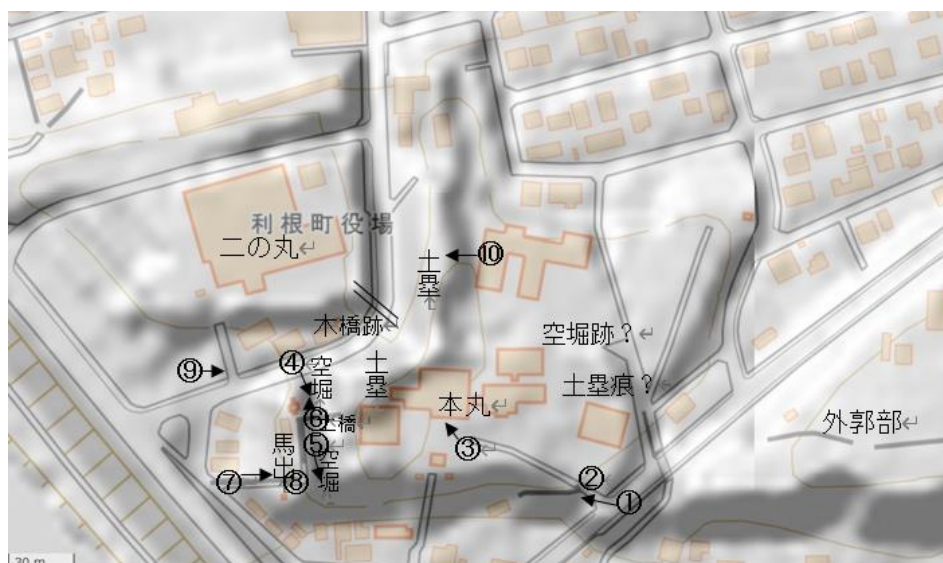


図3：写真撮影位置（図2に追記）\*丸付き数字が撮影位置、矢印は撮影方向





写真2 布川城址入口 (図3の①)



写真3 布川城跡碑 (図3の②)



写真4 本丸跡 (現・徳満寺 (図3の③))



写真5 二の丸 (役場) より空堀・土橋を臨む (図3の④)



写真6 土橋上より空堀を臨む (栄橋側)  
(図3の⑤)



写真7 土橋上より空堀を臨む (二の丸側)  
空堀底に石仏 (元禄時代) 有り  
(図3の⑥)



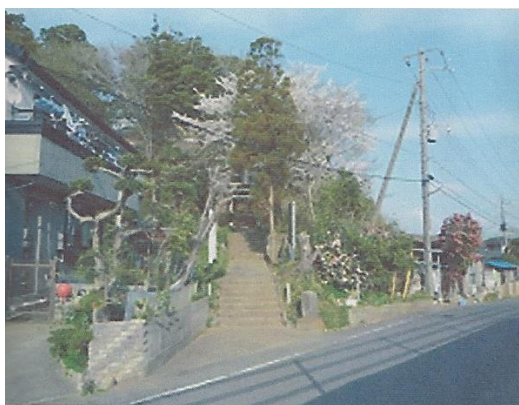


写真8 利根川堤防から馬出（琴平神社）  
方面を臨む（図3の⑦）



写真9 馬出付近、琴平神社（右側は空堀・  
土橋・本丸方面）（図3の⑧）

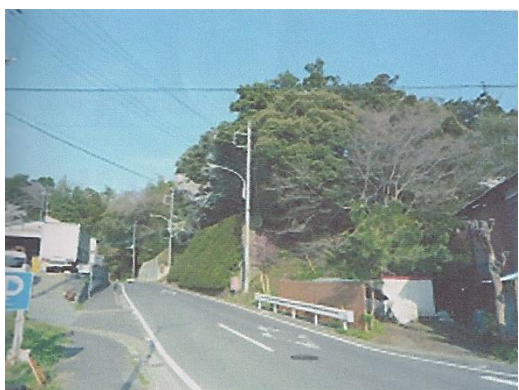


写真10 左側：二の丸跡（役場）、  
右側：本丸跡（徳満寺）（図3の⑨）



写真11 本丸（徳満寺）裏の土塁  
（幼稚園跡）（図3の⑩）

## 5. 徳満寺のその他の史跡

徳満寺（真言宗・豊山派）は元龜年間（1570～1573年）に祐誠上人が中興した寺で、当初は今の門前に建てられましたが、この地を治めていた豊島氏が慶長の乱（1600年）で滅ぶと城跡（現在の場所）に寺を移しました。

当寺の本尊は木造地蔵菩薩立像です。この仏像は

第七世隆饒（りゅうばん）上人が元禄年間（1688～1703年）に地蔵堂を建立し、京都の六波羅密寺から勧請したもので、身の丈七尺三寸（2.2m）もある木造の立像です。

以降、この本尊は、年に一回御開帳する事になり、それに合わせて門前に市が立つようになりました。

これが今に続く地蔵市の起こりで、『利根川図誌』（赤

松宗旦著）には「諸人村々より来たりて雲の如く、燈は町々に照らしてつれて月の如く…」と地蔵市の賑わいぶりが記されています。現在もこの地蔵菩薩は十一月下旬の一週間だけ御開帳されて、週末には門前町が大変な賑わいを見せています。（徳満寺木造地蔵菩薩立像説明文より）





写真12 徳満寺門前(以前はこの場所に本堂があった)  
地藏市にはこの前(現町会集会所)に市が立つ  
右側石段を上ると本堂

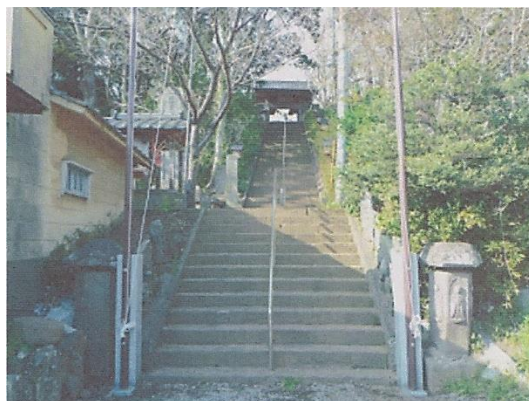


写真13 本堂に上がる石段  
石段中間部左側に腰郭?



写真14 石段の両側にある石仏(元禄時代)

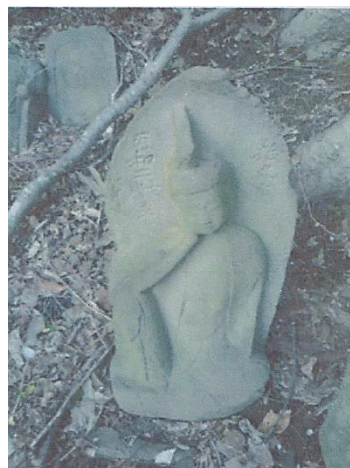


写真15 腰郭にあった石仏(天和二年)

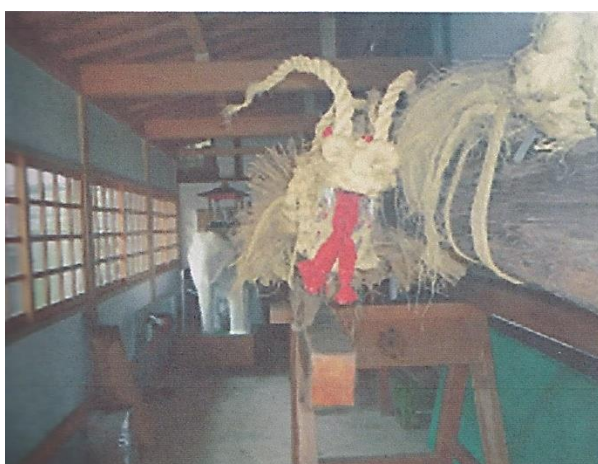


写真16 大刀祭で使用される木の大刀と  
龍のしめ縄(一部)  
江戸時代後期天保年間から続く祭  
に使用される

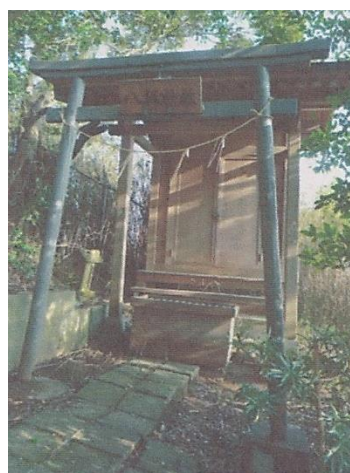


写真17 馬出(琴平神社)側にある八坂神社





写真 18 地藏堂



写真 19 本堂に飾ってある絵馬

また寺本堂には、見て非常に恐ろしく又悲しい思いのする餓鬼草子の絵馬が飾ってあります。柳田國男は十三才のときこの絵馬を見て「その意味を、私は子供心に理解し、寒いような気持ちになった」と後にのべています。

「このようにする外ない

飢饉の悲惨さを絶滅しなければならぬ」という思いが彼に農政学の道を選ばせたのです。(利根町教育委員会)

この飽食の現代においてニュース等で子供に対する虐待、都会の片隅における餓死者等の事を見聞きするたびに、この絵馬に描かれ

ている時代と現代の状況を思わずにられません。



写真 20 小林一茶の句碑



写真 21 日本最古の十九夜塔(万治元年・1658年)  
時念仏塔(元禄十四年・1701年)

6. 利根町のその他の史跡



写真 22 来見寺(永禄3年・1560年に豊島頼継が創建)  
来見寺赤門(宝暦5年・1755年)に再建)  
  
赤門近くに一茶の句碑有り  
又布川城主豊島家・赤松宗旦の墓有り



写真 23 来見寺無縁塔  
  
来見寺第三十世大丈正夫大和尚により  
四百数十年の歴史の間の無縁仏を祭る  
無縁塔を建立された  
元禄・天和時代の石仏有り



写真 24 赤松宗旦住居跡(再建)  
  
常陽銀行利根支店前



写真 25 柳田國男記念公苑  
所在地:茨城県北相馬郡利根町  
布川1787-1

7. 利根町布川城址に行く道順

①バス・徒歩:JR 成田線で布佐駅下車大利根交通バスしらさぎ団地・取手駅行または利根ニュータウン東行き利根町役場前下車栄橋に向

かって堤防に沿って下の道を行き橋の手前T字路を左に住宅の間を数メートル行くと集会場と徳満寺の石段の下に出ますので石段を上ると山門と本堂に出ます。(バスは1時間に1本あるかないかです)

②徒歩:JR 布佐駅下車駅前ロータリー左側を利根川方向に行き、布佐本町の信号を左折し坂道を上って行くと栄橋に出る。橋を渡り陸橋の手前の信号を直進(4号線・千葉竜ヶ崎線一竜ヶ崎方面に向かって)陸橋を渡り

った所の左側に徳満寺の入り口があります。(駅から徒歩30分位:天気の良い日でしたら川風に吹かれながら徒歩も良いかも)

③自家用車:国道6号線我孫子市大利根橋の手前を左折6号線下を通り、東我孫子カントリークラブ前を堤防の側道(我孫子・利根線)を木下・安食方面に向かい直進、栄橋のたもとの信号を左折し橋を渡りきった所の信号を左折し取手方面に向かうと300mくらいの右側に利根町役場の駐車場があります。駐車場に車を置いて布川城址に行かれると良いと思います。

布川城址から来見寺や赤

松宗旦住居跡まで徒歩10分位ですが、柳田國男記念公苑までは少し距離があります。(徒歩20分位:足に自信のある方はどうぞ)

布川城址(徳満寺)にも駐車場がありますが、分かりづらい所なので利根町役場がおススメです。来見寺も柳田國男記念公苑も駐車場があります。赤松宗旦住居跡は、街中の常陽銀行利根支店前なので駐車スペースはありません。

8.最後に

今回は徳満寺住職・来見寺住職不在のためお話を伺えませんでしたため、若干不備な点があると思います。どうぞ御容赦下さい、何

かの御参考にして下さい。

布川城址の資料は、徳満寺住職の姉に当たる方の御協力でお借り致しました。

個人的な事で恐縮ですが、徳満寺の腰曲輪の場所に私の妻の実家がありました。他の方と共に戦争中に東京から疎開して来て、お寺から借地して先年まで住んでおりました。

その関係で私も30年近く前から度々この地を訪れておりました。

柏市にもそれ程遠くない、新興の住宅地もある場所ですが、夏祭り・盆踊り(灯籠流し)・地藏市と昔の情緒がまだ残る趣のある場所です。

(注:若山さんのこの力作は会誌にも掲載予定です)

## お知らせ

### <総会・講演会について>

新型コロナは第6波が収束しつつあるとはいえ、まだまだ懸念があります。コロナ前に戻るには、時間がかかると思われ、総会や従来同じ日に行ってきた講演会は、7月くらいに時期をずらそうと思います。何卒、ご理解のほど、よろしく願います。

### <『水辺の城』第6号発刊について>

『水辺の城』第6号を今年5月から7月頃に発刊しようと思います。内容は、過去の講演会の講演録のほか、常総の地域史に関するものなどです。まだ原稿を集めている段階ですので、皆さんもご投稿頂ければ助かります。

### <原稿募集>

紀行文や写真、イラストでも、地域の歴史、自然に関わることなど、よろしく願います。

## 手賀沼が海だったころ

手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会会報 第46号 2022.3.30

編集・発行人: 森 伸之

年会費 2千円 振込先: 千葉銀行 柏支店 普通 口座番号 3461475